



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



ろくろを回し、漆塗りの

木工芸に取り組む元気人

竹野地域で、ろくろを回し、漆塗りの木工芸に取り組み、木の温もりと木目の美しさを伝える元気な男性を紹介합니다。

花垣嘉胤さん(75歳)竹野町阿金谷

テレビで木工ろくろを知る

「この作品を見てください。木目がきれいでしょ」と話すのは、木工芸に取り組む花垣嘉胤さん。

花垣さんは、平成元年に銀行を退職後、残りの人生をどうしようかと考えている中、テレビで木工ろくろの作品に出会いました。「お盆でも作ってみようかな」と、早速、ろくろを作っている会社からろくろを購入し、木工芸に取り組みました。

まずはふたものに挑戦

ろくろ作品は、大きく2種類に分かれます。ふたものと平ものです。花垣さんは、お盆を作る大きな板がなく、わが家にあった割木で何か作れないかと考え、まず、ふたものと呼ばれるなつめ(抹茶入れ)作りに挑戦しました。

わが家にあるなつめを見ながら、クリの木やケヤキなどの乾燥した割木を使いたい大きさに切り、ろくろに付けて刃物で削り、仕上げます。ふたと木目が合うように調整をし、その後、紙やすりで磨き、

塗料を塗って完成です。

花垣さんは、「初めは、なかなか思うように作れず、毎日毎日、ふたもの作りに挑戦し、腕を磨きました」と話します。

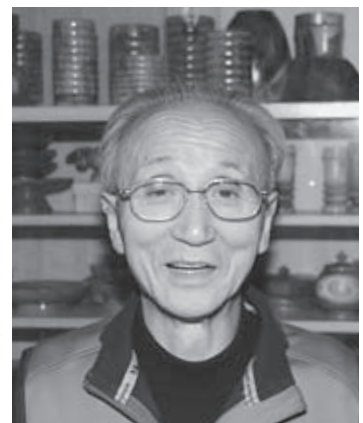
漆塗りに魅せられて

次は平ものに挑戦しました。材木屋などから大きなケヤキやトチノキなどの原木を購入し、使用したい大きさに切り、粗彫りをした後、約1〜3年干して乾燥させます。

乾燥した木材をろくろに付け、刃物で削り、紙やすりで磨いていきます。磨くときは、刃物で削った逆回転で行います。ここまで約1週間かかります。そして、漆塗りです。

漆塗りは、工程がたくさんあり、乾燥するのに湿度80%、温度20度で管理する室が必要となります。そのため、この室がある京都府福知山市夜久野町の「漆の館」に作品を持って行って、漆塗りをします。

紙やすりで磨き、漆を塗り、室で3日間乾燥させる工程を10回繰り返し完成します。



▲木工芸に取り組む花垣さん。趣味は、ゴルフ、旅行

花垣さんは、「漆塗りに魅せられました。漆塗りは作品を削るより時間がかかりますが、良い作品を作るために、遠くでも通います」と話します。

オンリーワンを目指して

花垣さんの作品は、このほかに置きつぼ、茶筒、菓子入れ、香合、茶たぐ、一輪挿し、花びん、はし立て、座卓、ついで、机などがあります。

花垣さんは、「これまで、数を作って腕を上げてきましたが、これからは、木を完全に生かして、オンリーワンの良いものを作っていこうと思います。そして、1人で楽しむのではなく、仲間を作って、木の固有の魅力を伝えていきたいです」と話しながら、ろくろを回し、次の作品作りを始めました。

保育園に広報ついで来た！ 23 最終回

たがわ 蓼川保育園

（日高）
〈園児104人〉



保育園シリーズ最終回は蓼川保育園（日高町祢布）。

川には多くの事業所があります。周辺には多くの事業所があります。

こうして環境を生かして、11月19日「職場訪問」が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

感謝の気持ち大切に

勤労感謝の日（11月23日）を間近に控え、働いている人たへ感謝の気持ちを伝えようと、4歳児の園児たちが保育園を出发します。

2クラスあるうちの1クラスは、「但馬日高郵便局」へ。保育園から少し距離がありますが、園児たちは頑張り歩いてきました。



このお店は何のお店？

郵便局までの道には、たくさんのお店が並んでいます。花屋さんや八百屋さん、銀行など。電器屋さんの前では、「こんな

大きなもの、どうやって持つてくるの」と展示しているエアコンを見て考える園児の姿もありました。



手紙がいっぱい！

郵便局に到着すると、ここで働いている人たちに迎えられ、園児たちは早速尋ねます。「どうしてポストは赤いの」「なんでみんなの家を知っているの」。すると、局員は「ポ

ストは昔は黒色で、夜でも目立つように赤色にした」「家は頑張りて覚える」と優しく教えてくれました。

そして、中で作業しているところも見学し、手紙がたくさんあることに園児たちはびっくりしていました。



いつもありがとう

職場見学を終え、保育園に戻ると、日高の消防署を見学したクラスの園児たちとお互いが体験したことを意見交換しました。

身の回りには、みんなのために働いている人がたくさんいることを知った園児たち。何よりも自分のお父さんやお母さんに感謝です。「いつも私たちのために働いてくれてありがとう」。



顔輪 笑の

合奏の楽しさを分かち合いたい！ 『城崎邦楽合奏研究会』（城崎）

平成18年12月に設立した「城崎邦楽合奏研究会」には、中学生から70代の高齢者まで、幅広い年齢層の邦楽愛好家たちが集います。

邦楽曲は、主に箏、三弦、尺八などによる合奏曲が多いですが、日常の練習では合奏する機会がなかなか作れません。また、流派によっては、演奏曲や譜面も異なる場合があります。

「同じ邦楽。流派や楽器のジャンルを超えて、一緒に楽しさを分かち合いたい」と語るのは、この研究会の会長を務める伊賀二郎さん（城崎町）



▲練習の様子



▲ギターと箏、胡弓との合奏

ごろの個々の練習成果を披露しながら、合奏を楽しみます。また、ギターなどの洋楽器と合奏したり、茶道や詩吟、日本舞踊とも共演してみたり。今後は雅楽楽器との合奏も検討中です。

最近では、「城崎温泉節」などの地元で伝わる曲の伝承や小・中学校への出前講座にも力を入れて活動しています。「日本の伝統音楽である邦楽を、特に若い人たちに伝えていきたい」と話す伊賀さん。邦楽の経験がない方も大歓迎とのこと。入会希望は伊賀さんまで。 ☎ 32-2011